

菊池五山：東福寺

東福寺は、菊池市中心部の東に位置する丘の中腹から、築地（ついじ）井手（用水路）を見渡し、遠くに菊池川を望む。この場所には特別な意味がある：中世、東福寺は菊池五山の東の構成員であった。五山は菊池氏の様々な行政、監督、宗教的任務を果たす代わりに一族の庇護を受けた禅寺群であった。五山制度では、東西南北を代表する寺院が1つずつあり、中央の寺院とともに五山を構成していた。

菊池五山は菊池武光（1319-1373）によって指定された。武光は有力な改革者であり、一族が権力の絶頂に達した時の名士であった。彼は五つの寺を選定する際、南宋時代（1127-1279）の中国で始まり、鎌倉幕府（1185-1333）によって日本にもたらされた伝統に倣った。鎌倉五山制度の目的は、鎌倉幕府が最も好んだ仏教の宗派である禅を広めることと、その寺院を官僚機構に組み入れ、天下と民に対する幕府の統制を強化することであった。菊池武光が五山制度を導入したのも、宗教的な徳と行政的な利益という2つの目的があったからだと思える。

東福寺は菊池氏の菩提寺のひとつで、墓地には数人の同族の墓がある。東福寺の本尊は千手観音像で、不動明王と毘沙門天を従えている。この三つの像は熊本県の重要文化財に指定されている。